



北本市立南小学校だより

わかみどり

URL <http://minami.city.kitamoto.lg.jp>

令和6年12月号

〒364-0032

北本市緑3丁目387番地

TEL 048-591-4709

FAX 048-591-5802

学校教育目標 **みんな なかよく みどりの学校** 「かしこく げんきな 南っ子」

「師走」を迎えて

校長 酒井 一昭

暑く長い夏、短すぎる秋、いよいよ寒さ厳しい冬へと季節が移り変わり、早いもので2024年の締めくくりの月「師走」を迎えます。街には煌びやかなイルミネーションも目にするようになり、クリスマスや年の瀬が近づいていることを感じます。

11月末から12月の初めにかけて、本校では個人面談を実施しています。ご多用の中、個人面談にご協力をいただきありがとうございます。短い時間ではありますが、各担任が保護者の皆様と顔を合わせて言葉を交わす貴重な機会と考えております。学校と各家庭が連携を図っていく上で面談を行うことは、大変有意義なことであり、今後も気になることやお悩み事などがありましたら、いつでもご相談ください。

さて、長い2学期もまとめの時期となりました。2学期を振り返ると、日々の学習に加え、修学旅行、社会科見学、校外学習、運動会、市内・地区音楽会、市内体育大会、持久走大会 など、様々な行事を行ってまいりました。その中で児童は、「話す・聴く・書く・見る・触れる」活動に真剣に取り組むことができました。また、友達との交流や教員との関わり合いをとおして、一人一人が少しずつ着実に、少しずつ確実に、「知・徳・体」の成長を遂げてくれたと感じています。

この学校だよりの発行日が12月2日とすると、2024年も残り30日、2学期は残り17日となりますが、良き締めくくりとなるよう、全教職員で教育活動に取り組んでまいります。今月もどうぞよろしくお願いいたします。

子どもにとって本当にうれしい「ほめ方」とは

「子どもは、ほめて育てると良い」ということは、すでに通説となっているように思います。

それでは、お子様がテストで百点をとって帰ってきたとき、徒競走で1等だったとき、お子様にどのような言葉をかけますか？

大抵は「百点だったの。よくがんばったね。」「徒競走、1等だったね。すごいね。」というほめ方をすると、思います。

これは一見、適切なほめ方のように思えますが、その裏には、「百点だったから」「1等だったから」ほめるという「結果主義」が見えます。そうやってほめられてきた子どもは、「百点でなければ（1等でなければ）うれしくない」というこだわりが強くなり、「そこに至る過程」を楽しめなくなる可能性があります。

一人一人の子どもが、同じように努力をしても、全員が同じような結果になるとは限りません。その結果が満足のいくものであってもなくても、「そこに至るまでの過程」を十分に認め、ほめてあげることが大切です。特に結果が良かったときなどは、ついその「結果」ばかりをほめてしまいがちになります。でもそういうときこそ、「そこに至るまでの過程」を認めることを大事にしていきたいです。

子どものほめ方には2種類あるといえます。

一つは「子どもがやり遂げた、努力した」ことを認めるほめ方です。もう一つは「子どもの存在そのもの」をほめることです。これは、特に何かをしなくてもほめられる、文字通り存在するだけでほめられるというものです。

どちらもとても大切ですが、ご家庭で特に大切にしていきたいのは、「子どもの存在そのもの」をほめる後者です。なぜなら、「あなたがいてくれるだけで嬉しい」ということを伝えられるのは、一番身近な家族のほかにはありません。けれども、「存在そのものを認める」ことは、頭の中では思っている、日常では、あまり子どもに伝えていないのではないのでしょうか。子どもは誰かに「存在そのものを認められている」と思えるだけで、長所も短所も併せもった自分を「価値ある人間だ」と感じる自己肯定感を育てることができます。自己肯定感を育んだ子どもは、他者の違いを理解し、認め、他者を思いやることもできます。

これからも、今まで以上に成功や優劣に関係なく、「みんながいてくれるだけで嬉しい」というメッセージを、私も南小学校の子どもたちに、これからも大切に伝えていきたいと思っています。